

人、摘草や忘れて來たる藁草履 山田だるま

追加 無一庵鹽野奇零

雨多き旅の日記や惜む春

草鞋賣る軒端の低し糸柳

軍神の俤見えて散る櫻

あした立つ奈良の旅寐や惜む春

寫生して暮る、裾野や夕霞

薄曇る霽や門田の初蛙

編輯記者白す。此俳句集、前一回分郵便上の間違のためによ到着せず、爲めに前號には掲載するを得ず、目下調査中なれば、了承あらんことを乞ふ。

家庭に於ける所感

長野市 飯塚忠次郎

(十三) 小兒と依頼心

小兒が何故に依頼心を惹起するようになるでしよ

うか、此問題このもんだいは小兒せうにのあるお家庭かちではとくと御注ごちゆう意いなさつて、十分御考究ごかうきゆうなさるべきことではないかと思はれるので御座ございます、さてそれはどういふことが原因げんいんとなるのかといつたならば（小兒せうにが此の依頼いらいの心こころをおこすといふことには）種々しゆづありましようが第一だいいちに家庭かていに於ける平素へいそのしつけによることが申すまでもありませぬ。それであまり小兒せうをにあまやかしたり、小兒せうにの言ふ事ことを一から十まで、其出来得そのできうると得ざるをとはずさいてやるやうにすると、そこから何事なにごとをなすにも人たのみをすひとる様ようになつてゆくの御座ございます、私はこのようわたくしにちやはやいふてそだてるのは眞まことに小兒せうにを愛育あいよくするといふものではなかるうと思ふのです、習慣じゆんわんといふものは恐るべきものであつて、自分じぶんよりゆうへのもや下女下男げにょげなんを使用しよつするとなどは何

とも思はなくなつてくる、よし自分の力で充分に  
 できうるをでさへも「あゝしてくれの」こうして  
 くれの」と、とかく色々なことをいふ様になつてく  
 る、そこで其要求依頼によつては自身で出来得べ  
 きことはなるたけさせるようにしむけて、できな  
 いことはやむをえんからして、してやるといふよ  
 うにせねばなりません。「小兒がかわいそうだか  
 ら」といふていちいちしてやる、小兒の方からみれ  
 ば自分の要求がきかれるのですからして、それは  
 たしかに満足をするでしょうし、またよろこぶで  
 しょうが、しかしながら一歩退いてよくかんがへ  
 たならこのよなことは一時はよいかもしれぬ  
 が、こんなありさまで小兒をそだて、ゆくについ  
 には「ほうつといてもたれかゝやつてくれるだろ  
 う」といふぐはいになつて誠に一寸したことがら

では御座いますけれど、小兒の後來のために最も  
 よくないことであるといふことはたしかのちゝつ  
 と思はれるのであります。「かわいゝ兒にはたびを  
 させる」といふことばのあるのを皆様方もごしよ  
 うちでもありましようが、最もあぢはふべきこと  
 であると思考致すのであります。  
 父親が小兒に對して命令しておいたことをいへの  
 ものが自分から手をくだして「ないしょ」でしてや  
 るなどのことは大に考へむければならぬことで  
 す、若しもこんなことをしてやつたなら、小兒も  
 自然としらすしらすのうちに「ないしょごと」をす  
 るようになり、自分のことがあまねく大となく小  
 となく用ゐられるゆへ、わがまゝになつてきま  
 すし、それにつれてだんだんと依頼心は増進して  
 まゐります、そうなる、さゝいなことでも何で

もかでも人手を要するようになってきまして、自分の力でもつて充分にできることであつても「めんどくさい」といふて人だのみをする、ついに依頼心は一變致しまして、怠慢の心を生じて忍耐とか勇氣もつれてなくなつてしまいます、そうすると常に人にばかりたのみにしてゐますからして、自分のものも人にいちいちきかなくつては何がどこにあるやらわからなくなつて、一寸なにごとかしてみようと思ふても人にきかねばわからぬ、自然そうなるのはうつとくから、ものが紛失しやすくなる、一度ものでもみえなくなると「誰かゝしまつておいてくれ、ばよかつたのに」と、そうゆうふうな小兒にかぎつて怒たり泣いたりそれはそれはドタバタしてヤンチャンをいふてひとりのなわではなかなかきかない、よく小兒のめん

どうをしんからしてみてくれるようなめしつかいでもあれば萬事氣付くからよいかもしれぬが、其多くは義務的であるから、小兒のちらがしたものをこれはいるものであるかいらぬものであるかといふことを深くみやるほどのものはまづないからして、そのときになつてどこへやつたらうなぞと大騒をすることはめづらしいことではない、何事もしつけの方法でどうでもなるもので御座いますからして、世の一人人たちは出來得ないことはしかたがないですからしてやつてもよろしいですが、小兒の力で充分にできることは如何なることを論ぜさせなければなりません、之も獨立心を養成するの一端でありますから、大に其風習を御奨勵あつてしかるべきこと、存ぜられます、單に小兒がかわいそうであるからといふてはつとい

てはなりませぬ、まことに嫉けの良否は小兒其もの、幸不幸がわかるるさかえめでございますからしてくれぐれも御推考あつて「こうやればこうなる」こうすればあゝなる」と小兒育成のゆくすえのことを深くかんがへてやらねばなりませんこと、思はれます、實にちよつとの手かげんでまゐるくできるものもかどだつてできますことゆへ、何卒このへんのこととはあしからず御考へになつたが大切なことゝ存じます

子供のはなし。

和田くら

私の世話をして居る幼兒等の多くは中以下の者でございまして入園當時より能く家庭の状況を告ぐる者がございす是等の者の言行を一つ二つ御覽に供してどうか御批評を願ひたいと思ひます

▲さのふ山崎さんと歸り途で奇麗な五錢銀貨を拾

つたから交番へ届け様と思つてうちへ歸つたらお母さんは届けなくとも宜しいと云つて二人に分けてくれました(男五年四ヶ月)

▲晩におばさん所へお嫁さんが来るつてけさうちから鯉節を台に載せてあげたのですよ今に其人がうちに来る時には何か僕にお土産を持ちて來てくれるでせうね(男五、四)

▲うちには三人小僧が居て一番小いのはづるい小僧です何故つてばいつでもお芋やお菓子や豆を買

ひにやるときつと中途で半分位取るから(男五、一〇)

▲共同遊嬉にて一同打雜りて遊び居りしが不圖走り來り「先生袴に水が付いて居ますから拭いてあげませう」と云ひつゝ自分の手巾を取らせし故拭

ひ貰ひぬ(男四、八)

▲おとゝひお祖母さんと一所に買物に行て歸りて